

## ■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 11月 18日の日足終値(NY 時間午後 5時)時点での判断です。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

### ■ドル円

<<週足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンター線を下回っており、 $-2\sigma$  ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。ただし、今後、遅行スパンが陰転しないかぎり、 $-1\sigma$  ラインから $-2\sigma$  ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

<<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$  ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$  ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、売りシグナルの順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中だが、最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインには一旦到達済み。

## ■ユーロドル

<<週足>>

調整反騰局面の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
  - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
  - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
  - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、
- 等々。

また、終値が $+1\sigma$ ラインを下回るとレンジ局面入りする可能性が高まる。

#### <<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

#### <<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
  - 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
  - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
  - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
- 等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

#### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

### ■豪ドル/ドル

<<週足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、

- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+ - 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

#### <<1 時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

尚、直近にて、買いシグナルの順行パターンの買いサインが点灯中。

#### ■ポンドドル

#### <<週足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面

となっている。今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインの

ゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。

#### <<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

#### <<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中だが、最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインには一旦ほぼ到達済み。

## ■ユーロ円

<<週足>>

基調としての上昇トレンド局面。

遅行スパンが陽転しているかぎり、基調としての上昇トレンドと判断。

遅行スパンがローソク足に接近、接触するタイミングは押し目買いチャンスと読む。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインに到達済み。

<<1 時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

## ■豪ドル円

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中だが、最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインには既に到達済み。

<<4 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、  
最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインには一旦到達済み。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

## ■ポンド円

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけて  
の価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買い  
ゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、

等々。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<4時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

逆行スパンが陽転しているため、上昇バイアスを伴っていると読む。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、目先、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

逆行スパンが陽転しているため、上昇バイアスを伴っていると読む。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、

スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。

また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。